

第31回 SRお客様交流会

2022年11月1日(火) 大田区産業プラザPiO

「事故の瀬谷」から「無事故の瀬谷」へ
汚名返上した、SRとこころの指導

株式会社 東日本トランスポート 様

- 所在地：東京都港区芝浦3-13-8 (本社)
東京、神奈川、埼玉、千葉、栃木、茨城、長野に13拠点
- 創立日：1988年6月1日
- 代表者：代表取締役社長 柏木宏之
- 事業内容：一般輸送他、レストラン・ホテル・スーパーマーケット・
CVSチェーン店への共同配送・荷役作業出荷・事務作業等

SR導入 SRConnect 約220台
※ 2022年11月現在総務部 課長代理
日東寺 一樹 様

これが我が社のSR導入効果

事故件数が24%※大幅に削減
SRで安全意識と社内の絆が深まる

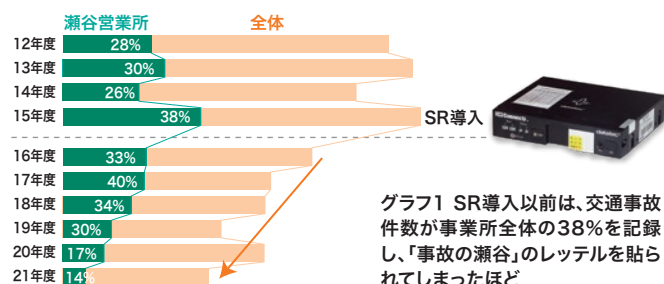
※ 事業所全体の事故発生率。導入前の最大38%から14% (2022年) へ削減

SR活用+山本五十六PDCAで回す
ドライバーファーストの指導を実施

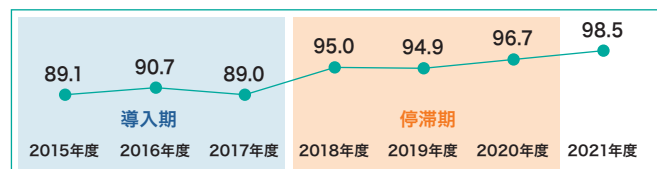
神奈川・横浜にある瀬谷営業所は事故が多く、「事故の瀬谷」というレッテルが貼られるほどでした (グラフ1)。

その汚名を返上すべく2015年にSRConnectを導入。導入後、すぐにSR得点が上がったわけではなく、管理者、ドライバーともに「試行錯誤の連続」でした。管理者は「SR自体の仕組み自体」を、ドライバーは「高得点を取る意義」を理解できず、両者に「意識の違い」が感じられました。また、ある程度、全体の点数が上がっても伸び悩みと停滞の連続でした (グラフ2)。

そこで、「管理者とドライバーの対話を増やす」ことを念頭に、



グラフ1 SR導入以前は、交通事故件数が事業所全体の38%を記録し、「事故の瀬谷」のレッテルが貼られてしまったほど



グラフ2 SR導入後における瀬谷営業所のSR得点の推移。導入に課題となったのは、「管理者の理解不足」「ドライバーの意識不足」。3年後は、95点前後となるが「停滞期」となり、対話による人間関係の構築を図った

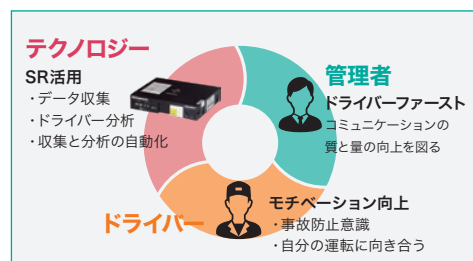


図1 SRを活用して、データ収集と分析の自動化を行った。研修などデータ・テックの支援もあったが、最初はドライバー教育が一筋縄にはいかなかった

課題の抽出を開始。管理者研修などデータ・テック支援の下、SRデータの収集・分析の自動化を行い、客観的なデータに基づく「ドライバーの運転分析」を行いました。これにより管理者に余力ができ、「ドライバーファースト」の具体的な指導と教育が可能になりました (図1)。

ドライバー指導の基本は、山本五十六※の格言「やってみせ、言って聞かせてさせてみて、ほめてやらねば人は動かじ」です。管理者が実際の現場でこの格言どおりに教育することに、とても苦労しました。腰を据え時間をかけて、あくまでドライバーファーストを旨とし、PDCAを回していきました (図2)。

その結果、「第9回SRグランプリ」に初参加し、小型部門2位、中型部門7位を、第10回は小型で1位、第11回は小型と中型ともに1位受賞を果たしました (写真)。

※ 大日本帝国海軍の軍将。第26、27代連合艦隊司令長官を務めた

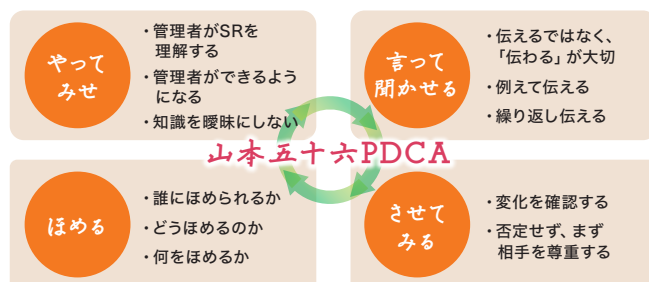
やってみせ、言って聞かせてさせてみて、
ほめてやらねば人は動かじ 山本五十六

図2 通称「山本五十六PDCA」。SRの客観的なデータを基に、コミュニケーションの量と質を向上させ、心を意識したSRによる指導と教育を行った



写真 SRグランプリで優勝という結果が出たことで、SR導入効果と意義を社内で実感。先輩が新人に教える文化が生まれ、その噂が評判となり採用増に繋がった

指導は、「人としての基本」を忘れない 全社員一丸の『本気』の取り組みを実行

ドライバー教育の基本は、「人としての基本を忘れない」こと。例えば、「目を見てしっかり挨拶をする」「言葉遣いに配慮し、悪い態度でドライバーに接しない」など、当たり前のことですが、SR導入前は日頃の忙しさのあまり、軽視しがちでした。「ドライバーのために何ができ、どのように指導をすれば伝わるか」**相手の立場に立つ「こころ」を持つこと**で、ドライバーと管理者間に信頼関係が生まれます(図3)。

その他、事故防止の取り組みとして、年に4回の交通安全運

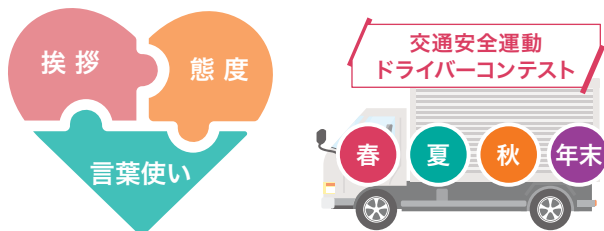


図3 ドライバーの指導は、最終的には「こころ」が大切だという(左)。ドライバーコンテストは、毎回、管理者がドライバーに目的をしっかりと伝えて「社員全員が楽しめること」を前提とした取り組みを企画している



図4 社長が中心となり、ブラック挙動の撲滅に取り組む。ブラック挙動が発生すると、配送中のドライバーへ即時連絡をして状況を確認するほどの徹底ぶり

動期間中に「ドライバーコンテスト」を実施しています。

本社でも、安全運転指導を徹底し、様々なキャンペーンや講習会、事故防止対策を社内一丸で行っています(図4)。

今後も、SRをはじめ先進技術を積極的に取り入れ、全社で物流業界での様々な課題解決にチャレンジします。DX化やカーボンニュートラルなど、時代の変化や要請に対応しながら、物流事業者として、**荷主様と社会全体から求められる企業をめざすため、成長を続けます。2024年、茨城県常総市に開設予定の3温度帯倉庫には、自動倉庫を搭載。その他拠点においてもテクノロジーを積極的に導入する事で、人の付加価値をより一層高めます。**

現場インタビュー 東日本トランスポート 瀬谷営業所 様

所長/物流技術管理士 亀田 卓也 様



「山本五十六PDCA」を指導の基本としています。事業所にスローガンを掲示し「事故撲滅宣言」をしてもらいます。例えば、「セヤノミクス3本の矢」という目標には、

- ① 後退時の指差呼称確認と一時停止
- ② 出発前の車両1周 ③ 安全な駐車位置

上記3つを現場で守っていただきます。

常に声かけと感謝の気持ちを

ドライバー 佐々木 慎介 様



SRで自分の運転やクセを振り返り、管理者と1点ずつ得点向上をめざしました。ドライバー同士で、注意や危険挙動が発生しがちな現場情報を共有し、実際の運転に落とし込めるので、「**考える運転**」ができるようになりました。



副主任(管理者) 千葉 直美 様

SRデータと実際の映像で具体的な指導ができます。ドライバーを決して否定せず、理由を理解してもらい、相手のモチベーションを上げること。「マ

メな声かけ」と、ドライバーへの感謝の気持ちも大切です。

SRお客様交流会のミニ情報 業界注目の新製品が続々登場!

データ・テックが兼松グループの一員に

データ・テックは、兼松株式会社のグループ会社となった。兼松は、電子・デバイス、食糧、鉄鋼など幅広い事業領域を持つほか、車両・車載部品分野でもグローバル展開をしており、データ・テックのグループ化により、車載用OEM部品等の取り扱いを強化拡大する意向だ。

AI搭載の次世代監視カメラ技術

兼松サステック株式会社は、AI(人工知能)を融合した監視カメラ製品を紹介(図1)。物流センターの倉庫内や外周、駐車場等での防犯や、「荷捌き」での監視、「パース」での管理などに活用。AI搭載により、年齢や性別、服色、ナンバーなど高度な「物体検知」「動作検知」を行い、倉庫火災時の炎まで認識できる。ヘルメット着脱検知・警告や、構内での人の転倒、喧嘩などを検知・警告することも可能だ。

アルコール+体温をW検知・管理できる

サンコーテクノ株式会社は、アルコール検知器システム『①ALCGuardianNEXT』『②ALCFaceVital』を紹介。

①は、呼器アルコール検知器での測定結果をPCで管理できるシステム。検知結果管理や測定者の撮影、異常時メール発報、

帳票出力が行える。②は、アルコール測定と検温測定結果を一元的に管理できるシステムだ(写真1)。

業界最高スペックカメラ搭載の最新SR

データ・テックは、SRフォークリフトの運転診断項目に「スイッチバック診断」を追加。また、業界最高の方角200万画素カメラを搭載し、最大6CHカメラに対応したSR『SRAdvance』を紹介(写真2)。居眠り、脇見運転を自動認識するAI機能や、注意挙動などを音声で警告する機能も追加。また、SRの「運転診断」をよりわかりやすくしたと発表した。



図1 左がヘルメット着脱状態を、右が喧嘩など異常行動を検知するAI監視カメラの事例



写真1 新型コロナウイルス対策にも役立つ『ALCFaceVital』



写真2 完全カードレス化の『SRAdvance』

オペレータの意識変化を促した フォークリフト専用SRの功績

株式会社 陽光 様

- 所在地：大阪府大東市御領3丁目7番5号（大阪物流センター）
大阪、犬山、大口、大口第2、福岡、岡山に6拠点（物流センター、営業所）
- 創業：1950年
- 代表者：代表取締役社長 高野寛人
- 事業内容：一般貨物自動車運送事業、第1種利用運送事業、
倉庫業、産業廃棄物収集運搬業、建設業、オフィス家具、
文具及び什器の販売業 他

SR導入 SRConnect 37台、SRForkLift 38台
※ 2022年11月現在



大阪事業部 大阪倉庫課 課長
長谷川 秀雄 様



全員でルールを決めて実行する！ 構内の安全意識改革に大成功

弊社は、オフィス家具や事務機器販売で知られる内田洋行のグループ会社として、西日本全域を営業範囲とする総合物流会社です（図1）。以前は庫内事故が発生すると、本人からの聞き取り調査だけが頼りで**事故の原因がわからず、事故の根本的な解決策が立てられません**でした。その原因追求と安全指導の解決策として、フォークリフト用SR『SRForkLift（以下SRF）』を導入しました。

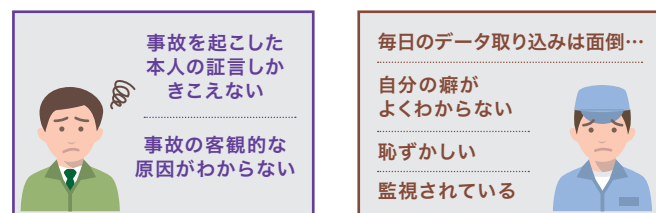
当初、データ取り込みの手間や抵抗感など様々な課題があり、リフトオペレータにSRFの意義と、会社の信用維持や従業員の安全確保などを十分に理解していただき、**社員全員でSRFの運用ルールを決めました**（図2）。



株式会社 陽光の3つの事業と強み

- 1 輸送**
配送
組立設置
- 2 倉庫**
入出庫保管
在庫管理
- 3 施工管理**
オフィス移転に
伴う大口搬入

図1 主にオフィス家具や機器を取り扱い、「輸送」は納品先へお届け、商品の組立設置、不用品の引き取り、「倉庫」は在庫管理や荷物の加工処理、「施工管理」は事務所移転のスケジュール管理や人員、トラック手配など、トータルでお任せいただける総合物流会社



管理者のお悩み（導入前）

オペレータのお悩み（導入後）

図2 SR導入前後の管理者とオペレータのお悩み。上（管理者や会社）からではなく、構内のみんなでSRFの運用ルールを決め、「安全運転を意識すること＝自分を守ること」を意識づけた

- ① 「ながら作業」の禁止**
- ② 急旋回、速度超過の改善**
- ③ 爪が並行になっていない**
- ④ 動作を丁寧、確実に行う**

図3 SRF導入後に判明した4つの事故原因。「急」のつく動作を厳禁とし、事前の段取りをしっかりと行うことを構内全員で決めたという。③は、パレットに爪を射す時にチルトさせ、爪がパレットに当たる音を確認するなどの構内ルールを徹底した

管理者がSRFの走行・挙動データが入った「フォークリフト業務管理日報」を元に安全運転指導を実施。その日以内に「**運転の振り返り**」を行い、運転技術の修正を徹底することで、管理者とオペレータとの対話も増え、信頼性も向上しました。SRFにより、「**ながら作業**」「**急のつく操作**」などの「**運転・操作の癖**」が判明（図3、4）。朝昼の点呼や進捗報告会でオペレータが自ら予防や解決策を提案する自発性が見られ、自分以外の仲間の運転に関心を持ち、構内コミュニケーションが強化されました。

また、構内事故が「倉庫側」の責任だけでなく、荷主様の「商品側」にも原因の一つがあったという発見もありました（写真）。今後も構内事故件数ゼロをめざし、SRFの客観的データに基づく安全講習会を繰り返して、センター増設を図って社内での倉庫売上率を30%から50%に伸ばしていきたいです。

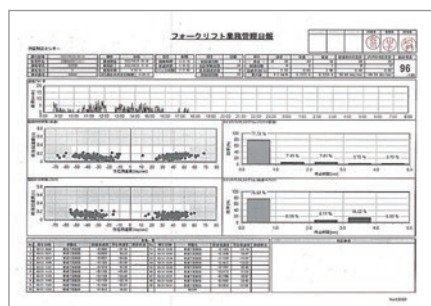


図4 同社の「フォークリフト業務日報」。SRFの客観的な数値データでオペレータに具体的な指導を行い、毎日の運転操作を振り返ってもらう



写真 事故原因の一つとして、商品の形態が影響していた事例。同社から積載方法の変更を提案することで、商品事故抑制につながった

SRで構内に安全意識が強まった！

大阪物流センター 大阪倉庫課主任 田中裕幸 様

フォークリフトの操作が雑でオペレータも注意散漫でしたが、SR導入後は**指差しや声出し確認を無意識にできるように習慣化**できました。特に発進や旋回時などのスピード超過を意識するようオペレータへ指導しています。



大阪物流センター オペレータ 宮根淑江 様

急旋回や急発進などをする、SRが警告音で知らせるので、実際の現場で**気づきや発見**があり、**警告音を出さない丁寧かつ慎重な操作**を心がけています。SRで構内事故ゼロをめざします。



SRで広がるお客様の輪

新型コロナウイルスの感染防止のため、SRお客様交流会でおなじみの「分科会」に代わり、SRの使いこなしや、物流業界が抱える課題など、5つのテーマに分けて座談会が行われた。

グループ1: 事故、バック事故の削減

- ・運転手や営業所ごとに「やる気」の違いが、点数差に現れている
- ・SR運用が長期化すると、とかく「マンネリ化」が発生
- ・道路が頭側の時、「悪いバック」挙動になってしまう
- ・バック操作は、走行全体の数%だが、そこに事故が集中してしまう
- ・ドライバーに「やらされ感」を持たせず、SRコンテストを社内で行うなど、ドライバーと管理者全員が楽しみながら取り組むことが大事

グループ2: 燃費高騰対策

- ・燃費改善に向けての行動こそが会社の発展を左右する重要課題
- ・「ふんわりアクセルを心がけ、急発進、急停止しない」「エンジン回転数をむやみに上げない」などエコドライブの基本を徹底させる
- ・燃費が高いドライバーにクオカードを贈呈し、やる気を喚起させる
- ・「燃油サーチャージ」として荷主企業に交渉を行う

グループ3: ドライバーの指導方法、マンネリ脱却

- ・SRの「注意/危険挙動」を重点的に、安全運転指導を心がける
- ・ドライバー歴が長いベテランは自分の運転を変えにくい、新人は指導を素直に取り込みやすい
- ・「交通違反=事故」に直結することを、新人の頃から意識付ける
- ・ドライバー育成は、SRデータを元にした「同乗指導」が効果的



- ・SR得点の評価だけではなく、映像チェックも重要。「道を譲る」などモラルの良い運転は、SR得点に加点して褒める

グループ4: 2024年問題対策

- ・3次、4次請けが多くなっていることが、荷主企業に伝わっていない。だが、過度な下請けを禁止すると、運賃アップにつながってしまう
- ・デジタル車載器やIoT機器の進化で、初心者ドライバーでも簡単にルート配送できることに期待しているが、その反面、ドライバーや管理者が操作をマスターする時間と手間ひまが課題
- ・2024年に向けて、徐々に残業時間を減らし慣れさせていきたい

グループ5: フォークリフトの安全管理

- ・「構内で事故を起こさない」ことを念頭に、オペレーターの安全管理に取り組む
- ・新人教育は、一定の操作基準を満たすまで続け、リフト搭乗実務は操作基準クリアを前提とする
- ・いくら早くても「急」の付く操作は厳禁。丁寧な操作でも実際の作業効率さはほとんど変わらない。事故を起こしては、本末転倒

第11回 SRグランプリ結果発表と表彰式

団体・個人、明送強し!!

新型コロナ流行のため約2年のブランクを経て、第11回SRグランプリの表彰式が行われた。参加総数601名の中から、厳正なる解析審査の結果、各部門での団体・個人・特別の各賞が決定した。

P1、2で紹介した東日本トランスポート様が、小型トラック部門で団体賞1位、大型トラック部門特別賞1位を獲得。個人賞でも小型トラック部門で1、2位を独占。団体・個人賞の中型と大型トラック部門などにおいては、明送様のドライバーがズラリと並んだ。その他、ASKUL LOGIST様、望月運送様、ダイキン工業様の各営業所のドライバーが、団体・個人の各部門で強さを見せた。



ASKUL LOGIST様は
個人賞 乗用車部門で1~3位を独占



SRグランプリ受賞式の様子

乗用車部門

第1位	ASKUL LOGIST株式会社 関西営業所	99.49点
第2位	ダイキン工業株式会社 世田谷SS	97.38点
第3位	ダイキン工業株式会社 厚木SS	95.46点

小型トラック部門

第1位	株式会社東日本トランスポート 瀬谷営業所	99.20点
第2位	望月運送株式会社 本社	87.41点
第3位	有限会社裕進運輸 本社	72.12点

中型トラック部門

第1位	株式会社東日本トランスポート 瀬谷営業所	97.47点
第2位	株式会社明送 埼玉営業所	97.19点
第3位	株式会社明送 東北営業所	96.79点

大型トラック部門

第1位	株式会社明送 東北営業所	99.79点
第2位	株式会社明送 守谷営業所	98.43点
第3位	平田運輸株式会社 岐阜営業所	98.35点

個人賞など詳細は弊社サイトをご覧ください。

<https://www.datatec.co.jp>



第12回 SRグランプリの参加を募集中!

次のベストドライバーはあなた!!

第32回 SRお客様交流会

2023年 6月6日(火) 東京・大田区産業プラザPiO

その他、イベント、セミナーの詳細は、弊社ホームページにアクセス!!

URL: www.datatec.co.jp

株式会社 データ・テック

〒144-0051 東京都大田区西蒲田7-37-10 グリーンプレイス蒲田11階
TEL.03-5703-7060 FAX.03-5703-7063
<http://www.datatec.co.jp>

2023©株式会社データ・テック
SRNEWS_VOL.75 2301C30-(0)